

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ会
連絡協議会

〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

つながりを大切にする

第21回 徳島市コミュニティまつり

渭北街づくり協議会 会長 岩丸 定



開会式の様子

第二十一回徳島市コミュニティまつりは、昨年十月二十三日(日)に渭北コミュニティセンターを主会場として開催されました。

今回は、第二ブロックが担当で渭北、渭東、住吉・城東、沖洲、川内、川内南、応神の各協議会が企画運営にあたりました。

駐車場の確保と集会場が狭隘なことを心配しましたが、市水道局の資材置場と小中学

校を借り、駐車整理に各協議会からも応援をいただきました。会場設営や資機材の準備は、地元の各種団体が早くから分担して準備を進めました。

さて、当日は天候に恵まれ、開会式では、島田和男市コミュニティ連絡協議会会長の挨拶から始まり、市長代理の佐藤第二副市長からの祝辞をいただき、地元の岩丸定渭北街づくり協議会会長が歓迎の言葉を申し上げ、来賓を紹介して式典を終わり、演芸発表では、各協議会から自慢の舞踊、大正琴、カラオケなど昼食をはさんで午後三時前まで熱演が続きました。

コミセン前庭では、テントの中で渭北はうどん、沖洲はネ



徳島中学校体育館でのカローリング

ギ焼き、事務局はコーヒーとポップコーン、沖洲、川内、応神は新鮮な野菜や果物の直売店を開き、いずれも盛況で、特に沖洲のネギ焼きが好評でした。

近接の徳島中学校運動場では、グラウンドゴルフが行われ、十八チームの参加があり、十六ホールを回り、打数を競いました。

成績は一位渭北、二位沖洲、三位丈六でした。

また、同校の体育館では、カローリングが実施され、二十チームの参加があり、市体育指導委員による実技指導と対抗戦が展開され、気持ちのよい汗をかき、親睦を深めました。

成績は一位渭北、二位八万中央、三位南井上でした。



即売会の様子

なお、第二ブロック協議会から、日頃の活動の記録をパネルに展示し、意欲ある研究が発表されており、高い評価を受けていました。

三時から閉会式のあと、豪華な景品の当たる抽選会が開かれ、各会場からの参加もあり超満員となり、全員床に座って一喜一憂、大いに盛り上がり和やかな交流の場となりました。

秋晴れにも恵まれ、多数の参加があり、内容の濃い充実したまつりが展開されました。積極的な努力が結実し、これからの街づくり活動の活性化につながり、新しいコミュニティ文化が創造されるものと期待しています。



パネル展

シリーズ
名所・旧跡

おのみこ 大神子周辺の史跡

勝占東部コミュニティ協議会

会長 高島伸一

小学生のとき、山道を歩き、峠を越えての大神子海岸への遠足、何度行っただろうか。今は市道大神子線が整備され、車ならあっという間に峠を越えられるようになった。その大神子海岸も、日の峰大神子広域公園として整備され、市内で唯一自然美いっぱい海岸として、市民の憩いの場となっている。

この大神子周辺と芝山一帯

は、藩政の時代には、阿波藩の公用地であり、施設の管理にあたる役人の他はこの地を手を触れることは許されていなかった。海岸線に長く突出した大崎や遠見が原の台地は外敵の侵入に備える絶好の場所であった。藩ではここに警備機関として「御番所」や通報機関として「狼煙場」を設置していた。また、芝山の山林は藩命によって保護され、



公園案内板より



狼煙場跡

大樹が繁茂した「御林」として立木伐採を禁止、山林原野は「おとめ野」として藩主以外の狩猟が固く禁じられていた。海岸の美しい石や砂も「おとめ石」といって庶民が採取するのを禁じていた(論田、大原地区に数多く残っている美しいおとめ石の石垣は明治以降のものと思われる)。

一方、籠山一帯は景勝地として、「御茶屋」や「藻風呂」(現在のサウナ風呂のようなもの)が作られ阿波藩主の清遊の地となっていた。これらの史跡のうち、「狼煙場跡」は海岸から大崎の尾根

に整備された遊歩道を行くと今も残されている。永い年月の風雨にさらされ周囲の石壁は半ば崩れ落ちているが、今も当時のままであると聞く。阿波藩では異国船の来航を見張るために、海部から徳島に至る沿岸の要所に遠見番所を設けたが、それらの番所で発見した異変を速やかに徳島城まで報告する手段として各地に「狼煙場」が築造された。大神子のもは元禄年間に築かれたと言われている。



城山方向より大崎の尾根と籠山を望む

このように、藩政の昔は人と人との出会いを拒む場であった大神子周辺も、現在は人と人の出会いの場として生まれ変わっている。ぜひ大神子海岸を訪ねてみてください。(参考文献 徳島郷土双書一 二 大神子)

西新町について

西新町五丁目西町内会
会長 福島治高

私の住んでいるところは徳島市西新町五丁目であるが、年寄りから次のような話をよく聞かされたものである。

『昔々、いつのことじゃろかいのう。梅見の宴に招かれた殿様が、毒を盛られたという話があるんじゃ。殿様は毒を盛られたことを知ったので、急いで住まいの徳島城へと馬で駆け帰りよるときじゃった。ちょうどこの辺で、老婆がお墓参りに行つきよるのに出くわしたんじゃと。セコイセコイと息絶え絶えになっていた殿様は、馬を止めて老婆に「オイ、その水をくれんか」

「はいはい。お殿様、どうぞ召し上がってくださいまし。」と殿様に水を差し上げたそう。お殿様はその水を飲んで元気を取り戻され、とても喜ばれたそうじゃ。後からの話じゃが、あのときの水には助けられた、礼にこの辺の税を免除しよう。免許町というよ

うにせよと、お達しがあつたそうじゃ。それ以来この町は免許町といい、商売繁盛したそうじゃよ。』

と、右のような言い伝えがあつた。果たして史実はどうだったのかと疑問があつたので「徳島の歴史」に関する書物で調べてみた。

新町の歴史は、一二二二(承久三)年頃から始まる。その後蜂須賀家政の徳島城下町編成のとき、町家希望の者に相應の土地を与えるというお触れが出た。すると三人の商人が屋敷地の下げ渡しを願ひ出たという。藩では、この商人に新町川と眉山との中間の土地を三分して分け与えた。そのようにしてできた町筋が、現西新町一・二・三丁目である。城下町編成当初の商人は、もと武士であつたり、領主と深い関わりがあつた豪商たちで、領主の庇護を受けつつ、繁栄したようである。城下町

編成当初の西新町の商人が中心となり、城下町商業地としての役割を形成して行ったと思われる。

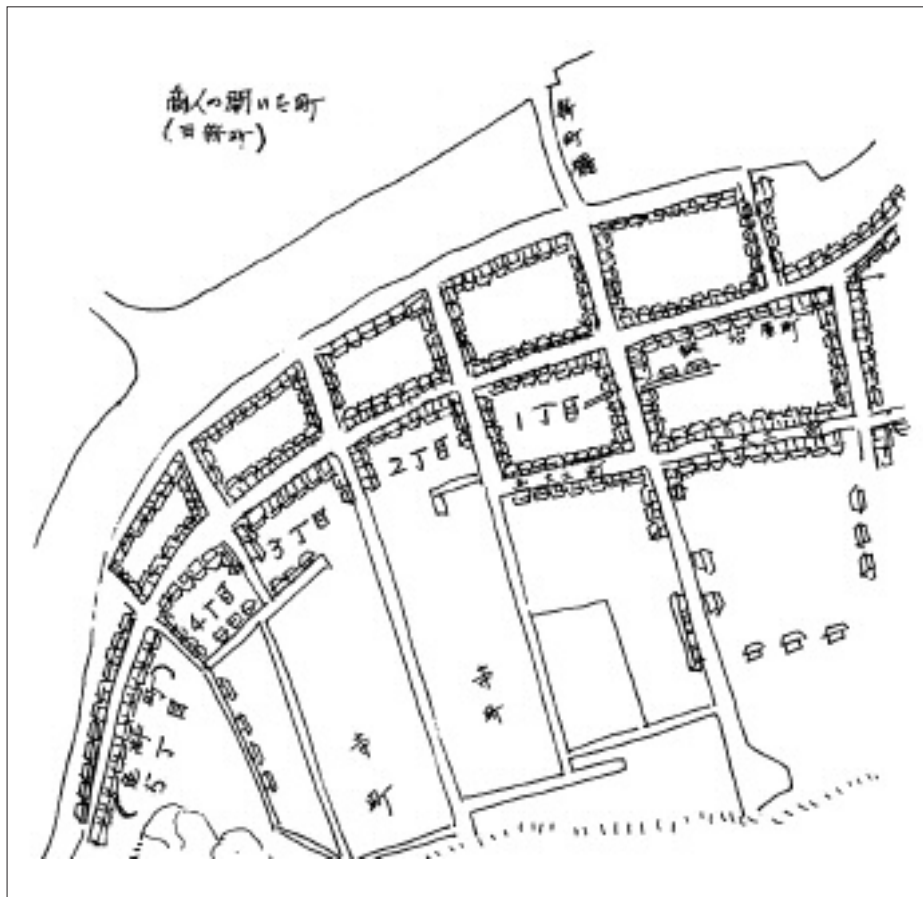
免許町(今の西新町五丁目)は、城下町編成のころは新町川と佐古川の合流地点で全くの荒地であった。

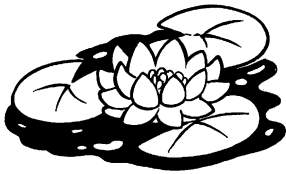
ここを開拓し、新開地の造成をしたのは、三木正通(？)一六一三)という人物で、蜂須賀家政が阿波へ移封されたとき、同行して阿波へ入国した武士で、新開地を造成したのち、商人になった人である。新開地は初めのうちは人が集

まらない。そこで藩は、三木正通の意見をいれ、年貢や賦役などの諸役御免をすることで繁栄をはかったのである。諸役御免になったので御免許町といったが、後に免許町と改め呼ばれるようになった。

以上が簡単な西新町の歴史であるが、城下町を創るため領主と商人が協力し努力し合ったのだ。西新町は中心的商業地として繁栄したが、やがて町筋は東へ北へと延びて行き、徳島城下はさらに繁栄を極めていったのである。史実と云い伝えの間には、少なからずギャップがあるが、その時代の出し物(能や浄瑠璃等)の影響があると思う。

(新町コミュニティ協議会)





平成23年度

八万地区成人式開催

八万コミュニティ推進協議会
副会長 露口玲子



「今年の成人は元気かな、おとなしいかな」「成人式をきちんと受けてくれるかな」成人式の運営委員さんは、準備の時期に入ると参加者の式場での態度について、心配したり期待を持ちながら準備に掛かります。

平成二十四年一月十日に八万コミセンで平成二十三年度の成人式を開催しました。出席者は男子百名、女子百一名合計二百一名でした。

当日、早朝より運営委員は式場や受付・記念演奏などの準備にぬかりなくかわりました。時間が来ると、八万コミセンの体育館にはキリッとしたスリッ姿の成人男性と華やかな振袖衣装を着た女性が集まりました。受付の様子は例年に比べて礼儀正しくあまり混雑が見られません。



「今年の成人はおとなしくきちんと受付してくれ」の感想の声とともに、ホッとした空気が流れました。久しぶりに会った成人たちは懐かしそうに挨拶をしたり、卒業後の再会に歓声を挙げていました。

式辞や祝辞のあとの小学校六年と中学校三年の時の担任による紹介になると、静かな会場が一度ににこにことした笑いと先生を迎えた懐かしさに満ち溢れました。先生が紹介

介を始めますと後ろの席の人などは、立ち上がって先生の話を聞きながら相づちを打っていました。八万地区の成人式の目玉として先生方にご出席を願っているが、単調な成人式が、一挙に明るく和やかになる欠かせない内容になりました。



ほろこう あん 葆光庵のいわれ

蔵本老人会 会長 小椋健司

第五十五号コミュニティだよりに槍場の義戦に参加し、不運にして無念の最期を遂げたもののふの霊を祀った「元町の地藏さん」の由来を書きました。そのお地藏様からお

よそ百メートル北に足を延ばすと、そこにかなり大きな本格的な造りの庵があります。

今様にいうと蔵本元町三丁目蓮花山葆光院大悲殿。単なるお庵ではなく、蔵本三丁

救命講習会を 開催して

沖洲コミュニティ協議会

当コミュニティセンターでは、平成十八年三月からAED（自動体外式除細動器）を設置しています。今般、五年ごとに見直される国際的な救急蘇生の指針（ガイドライン）が改定されたことを受け、AEDの手順も変更されました。そこで、「常設されてはいるが、AEDの使い方がわからないため、救命措置ができません。尊い命が失われてはいけません。」と、当コミュニティセンターを利用しての救命講習会への



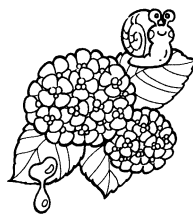
参加を呼びかけ開催しました。講師は、日赤徳島県支部の岡本知也氏、講習サポートを徳島市防災指導員でもある、コミュニティ協議会役員二名にお願いました。はじめに、講師からAEDの有効性についてのお話があり、次に人形を使い、AEDの使用方法について説明を受けたあと、参加者全員が班に分かれて、AEDを使った救命体験をしました。はじめは、大声での呼びかけができなかつたり、手順どおりにいか



なくて笑い声が絶えず、お互いに資料を確認しながらの体験でしたが、最後には、てきぱきと行えるようになりました。どの行事にも共通することですが、特に命にかかわることは、繰り返し行う必要があると思います。また、昨年十二月に、日赤徳島県支部から沖洲小学校に「災害用移動炊飯器」が寄贈されました。この炊飯器の使い方の方の指導を兼ねて、日赤沖洲分区奉仕団が沖洲小学校の教職員やPTAの方に、ハイゼックスを使った、ご飯の炊き方を指導し、救命講習会に参加された方にカレーを振る舞いました。



当会では、年間を通して、さまざまな講習会や体験会、訓練等を開催しております。平成二十四年度も少しでも多くの方に参加していただけるような行事を、役員の皆さんと協議して計画しております。



編集後記

「人は城、人は石垣、人は濠」人こそ命、人の営みを大切にすることをコミセンや市でありたいですね。

天下の名園、徳島城庭園の半数は大神子で築庭され、青石垣を支えているのも大神子石です。大神子の紹介に歴史の深さを感じました。

蔵本の葆光庵や西新町の免許町のいわれを教えられるにつけ、由緒ある町の復興や緑日の再興を願わずにはおられません。

阿波史跡公園誕生への地元努力と継承へのボランティア活動が椿植樹により「緑の環境、心の癒し、椿油で美貌」は名言ですね。

大盛況の徳島市コミュニティまつり、協力一致の賜です。

八万の一工夫ある成人式、次代を確かに築いていってくれることでしょう。

沖洲コミセンの救急講習会、南海地震対策に汗を流す地域の工夫努力こそ最大の地震津波対策です。

人は石垣、人は濠。玉稿に感謝。

（佐藤義忠 記）